

第 2 回モデル校情報交換会・中間発表会資料

平成 19 年 8 月 22 日（水）
仙台市立宮城野小学校

6 年 算数

1 授業でうまくいった事例の紹介

教 科 6 年 算数

教科担任制実施後の成果

◎ 教科担任主導で、各学級の実態に応じた指導形態を工夫することにより、ある程度の成果を上げることができた。

- 1 指導形態
- ・単元の導入部は教科担任による一斉指導
 - ・以後の展開では、内容のグレードや指導者の人数によって、一斉指導か少人数指導または T T 方式
 - ・単元末の練習問題、発展問題は少人数
 - ・学級の実態が大きく異なることに応じた指導

【A組の実態】

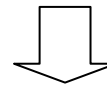
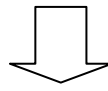
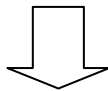
上位群が学級の 3 分の 2 を占め、中位群が極少数で、下位群の人数が多い。差が大きく、それぞれが学習に対する興味を持続させ、満足して学習を進めることが難しい。

【B組の実態】

上位・下位群の差があまりない。大多数が中位群で、一斉指導で、ほぼ同じ到達目標に向かって学習を進めることができる。

【C組の実態】

2～3 人の下位群と特別支援対象児がいる。上位・中位群がバランスよくいて、落ち着いて学習を進めることができる。



- ・習熟度別少人数で、下位群 5～6 人に一人の教師、25～26 人を一人の教師が担当。
- ・教師が 3 人つけるときは、3 グループ編成にする。

- ・均質の少人数 2 グループ。

- ・特別支援対象児を個別取り出し指導。残りを教科担任が一斉指導。
- ・教師が 3 人つけるときは、個別指導と均質 2 グループの少人数指導。

- 2 指導方法
- ・スキルタイム、宿題に使う算数の課題も教科担任が用意する。指導や採点は学級担任が行う。
 - ・国語・算数の宿題は原則毎日出す。
 - ・課題の内容は、全学年までの復習や、今学習している内容の補充問題。
 - ・さらに、算数ドリルを使って、自主学習に取り組みさせた。

3 成果 (△は全国平均比で上回っている。▼は下回っている。)						
	H18年6月 CRT検査		H19年4月 仙台市標準学力検査			
	本校	全国	本校	仙台市	全国	期待値
算数への関心・意欲・態度	76.7 ▼	78.5	77.3 △	75.9	70.7	66.0
数学的な考え方	64.8 △	62.6	74.7 △	71.3	66.2	67.0
数量や図形についての表現・処理	85.8 △	81.7	85.9 △	82.4	78.1	76.0
数量や図形についての知識・理解	78.3 ▼	81.1	83.7 △	78.1	73.9	72.5

教科	6年 算数	単元名	比べ方を考えよう
具体的な実践内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 単位量あたりの大きさを求める計算そのものは、決して新しいものではない。5年のときから、6年の学習に結びつけるように数直線図の書き方、読み方を徹底指導してきた。6年になってからも同じ教科担任が指導にあたっているのので、既習事項を想起させることが容易にでき、様々な単位量をあたりの大きさを数直線図を使って解くことができた。 ・ 下位群の児童でも、数直線や□を使った考え方を理解することができた。 ・ 「人口密度」の計算で、最初に授業をした学級で表の読み方（人口 万人）でつまずきが見られた。次のクラスからは、大きな数の読み方、表記の仕方の復習を取り入れ、容易に解くことができた。 ・ 「速さの表し方」では、公式を覚えて解くのではなく、自力で数直線を書き、公式を作るところから考えさせた。少人数担当者とも打ち合わせをし、数直線と□を使った式を大事するようにし、全員が正しく解くことができた。 			

2 授業でおもうようにいかなかった事例

教科	算数
具体的な実践内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元に関わらず、算数の授業時間以外の場面で補充的な指導を行うことが難しい。朝のスキルタイムや家庭学習の指導、放課後の個別指導は学級担任が行うが、T2としてでも算数の授業に関わっていないと指導が難しいことがある。 ・ 欠席した児童へのフォローアップが十分にできないことがある。TTで授業を行い、T2が欠席した児童への指導にあたることもできることもあるが、教科担任による一斉指導の中では十分にフォローできないことがある。 	

5年 算数

1 授業でうまくいった事例

教科	5年 算数
具体的な実践内容	
<p>◎ 教科担任制で授業を行うことにより、教材研究の時間がある程度確保され、資料や教材を効率よく準備することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あき時間の調整で、TT制で授業を行うことができた。より多くの児童に直接くわしく指導することができた。 <p>TT制に加えて、個別指導が必要な児童の取り出し指導も何度か行うことができた。</p>	

2 授業でおもうようになかった事例

教科	5年算数	
具体的な実践内容		
◎ 学校行事や担当者の出張、曜日などとの関係でクラスに進度の差ができてしまうことが多く、調整しようとしても、他の教科担との絡みが大きな壁となり、大変苦勞することが多い。(他の教科特に国語、道徳、学活などの、自分のクラスの授業にしわ寄せが来てしまう。)		

5年 社会

1 授業でうまくいった事例

教科	5年社会	
具体的な実践内容		
◎提示資料の読み取りを行う際、授業の度に適切な声かけを考えて行うことができたため、効果的な資料の活用ができた。		
◎一度授業を行うことで子どものつまづきやすいポイントを見つけることができ、事前に対策をとることができたので、基礎基本の定着の一助となった。		

2 授業でおもうようになかった事例

教科	5年社会	
具体的な実践内容		
・まとめの新聞づくりにおいて、本やインターネットを使つての調べ学習を行う際、図書室の利用を確保することが難しい。		
・受け持つクラスが多いため、児童の名前を覚えるまでに時間がかかり、授業のリズムがうまく作れるようになるまで時間がかかる。		

5年 家庭・音楽

1 授業でうまくいった事例

教科	5年家庭・音楽	
具体的な実践内容	単元名 「かんたんな調理をしてみよう」	
◎児童にとって間違いやすいところ、失敗しやすいところ、時間がかかる場所などが分かり、一回目より2回目、2回目より3回目と授業回数が進むことにより、適切な指導ができ、活動がスムーズに進み、授業が短縮された。		
◎材料・用具等の準備が容易であった。		

2 授業でおもうようになかった事例

教科	5年家庭・音楽	
具体的な実践内容	単元名 「針と糸を使つてみよう」	
・単元によっては、実技(作業)がメインとなる場合があるが、次の授業を考慮すると、途中で作業を中断させなければならないことがあり、児童の中には、不満感が残ってしまった児童もいた。		

5・6年 図工

1 授業でうまくいった事例

教科	5・6年 図工
具体的な実践内容	単元名 5年「糸のこのドライブ～伝言板を作ろう～」全12時間 単元名 6年「マイマグネットをつくろう」全6時間
◎6年生はこれまで新校舎増築のため、用具や備品を効果的に使った学習が物理的に困難な状況であった。今年度のうちに一通りの技能は体験・習得させたいと考え、今年度は5・6年生が電動糸のこぎりを使う慈悲木をそろえ、発達段階をふまえながら効率的に指導できるよう単元構成を工夫した。	
◎アイデアスケッチ、下絵完成、木とり、切断からやすりがけ、彩色、ニス塗り、接着、鑑賞（6年は自己鑑賞、5年は相互鑑賞）と学習過程を同じにして、取り組んだ。	
◎5年生・6年生とも刺激しあいながら、効果的に学習を進めることができた。	

2 授業でおもうようにいかなかった事例

教科	5・6年 図工
具体的な実践内容	単元名 6年「墨のうた」全7時間
・墨を使ったクロッキー、雪舟の模写、敷き写しによる「鳥人人物戯画」の模写、教師の示範によるぼかし、没骨技法の体験に取り組んだ。しかし、水彩絵の具セットと学習セットを併用したため、持ち物が煩雑になってしまったことが反省点であった。また、「薄墨」と「濃墨」の使い分けがなかなかできないうえに汚して終わりの児童もみられた。	

5・6年 理科

1 授業でうまくいった事例

教科	5・6年 理科
具体的な実践内容	◎6年生は、「ものの燃えかたと空気」「動物のからだのはたらき」「植物のからだのはたらき」と実験が多い単元が続いたが、時間割を同じ学年を同じ曜日に連続で組み込んだことで、スムーズに行うことができた。 ◎実験方法の手順をパワーポイントで作成した。その結果、実験手順の時間が短く行えるようになったうえに、子どもたちにわかりやすく提示することができるようになった。

2 授業でおもうようにいかなかった事例

教科	5・6年 理科
具体的な実践内容	・5年生の「天気と気温の変化」や「植物の発芽と成長」、「生命のたんじょう」など観察教材の際、授業時間以外の場面で観察しなければならないことがあり、調整がたいへんであった。たとえば、メダカの卵がうまれた時点で観察を行いたいがそのときに理科の時間をとれない、など。 ・6年生で葉に日光が当たるとでんぷんができるかどうかを確かめるために、エチルアルコールで葉の緑色をぬいて調べる方法とたたきぞめで調べる方法を行った。しかし、どちらも実験結果がすぐにでないために、授業時間内で終わらなかった。

3 学校行事などにかかわる特別時間割の編成や授業時数確保のための手だて

- ① 教科で行事と関連づけた指導が効果的な内容をピックアップし、指導時期を変えたり、指導内容を行事に関連づけるなどの工夫をした。
(例) 修学旅行に関連づけて 国語:『ガイドブックをつくろう』、社会:『人物調べ 野口英世』、家庭科:『金銭や物の使い方を考えよう』など
- ② 週案を学年会で作り、各教科の進度や学習内容の確認をし、時数調整と確保をする。
- ③ 学校行事や担当者の出張などで特別時間割を編成しなければいけないことが多々ある。その際教科担任制でなければ、自分のクラスの中だけで調整できる。しかし、教科担任制の場合、他のクラスの進度、他の教科担任の都合、他の教科の進度等を踏まえた調整を行わなければならない、学年会を開いて毎週調整することで対処していた。
- ④ 教務主任が書写を担当していることで、出張等あきが出たときに臨機応変に入って頂き助かった。

4 教科担任制での通信表について

- ・評価資料を各教科担任が作成して、担任に提出する。
- ・担任がその資料をもとに通信表を作成する。